

歳月の物語 ハラド年表

(WD298 号からの翻訳に加筆・修正)

第二紀

600 年	ヌーメノールの船がハラド沿岸に現れ始める。
1000 年頃	サウロンがモルドールを本拠地とし、バラド＝ドゥーアの建設を開始。
2280 年頃	ウンバールの港町が創建。急速に要塞化され、中つ国沿岸におけるヌーメノール人の主要港となる。
2350 年	忠実なる者たちの主要港、ベラルギアが創建。
2700 年頃	ウンバールが周辺地域を支配し始める。
3261 年	冥王が第 25 代ヌーメノール王、黄金王アル＝ファラゾーンに降伏し、虜囚となる。ウンバールの一番高い丘に、その記念碑が設置。
3262～3310 年	サウロンがヌーメノール人を墮落させる。
3319 年	ヌーメノール没落。島は海に吞まれ、忠実なる者たちとウンバールの黒きヌーメノール人のみが生き残る。
3320 年	ゴンドール建国。サウロン、モルドールに帰還する。
3430～3441 年	最後の同盟の戦い。サウロン敗北する。

第三紀

1～900 年	ゴンドールの国力が増大し、ウンバールは衰える。
933 年	第 13 代ゴンドール王エアールニル I 世、大艦隊を率いてウンバールを攻撃。激戦の末、港町をゴンドールの手に取り戻す。黒きヌーメノール人たちはハラドの野へ逃れ、かつて支配した民のあいだに身を隠す。
933～936 年	黒きヌーメノール人、ハラドの砂漠で軍を編成。
936 年	エアールニル I 世、ウンバール沖で大嵐に会い、艦隊と共に行方不明となる。
1000 年頃	ハラド軍、ウンバールを包囲。攻囲は以降数年続いたが、ゴンドール海軍が港を守り抜く。
1015 年	第 14 代ゴンドール王キアヤンディル、ハラドリムによってウンバールで包囲され、ハラドワイスの合戦で討ち死にする。
1020～1050 年	第 15 代ゴンドール王キアヤヘア、軍と艦隊を再建。
1050 年	ゴンドール軍、ハルネン川を越えてウンバールを解放し、ハラド軍を完膚なきまでに粉砕。以降キアヤヘアは「南の勝者」を意味するヒャルメンダキルを名乗る。ゴンドールの版図は史上最大となり、ウンバールの位置する半島周辺までの海岸線と、ハルネン川以北の内陸部を支配する。ハラドの諸王はゴンドールに忠誠を強いられ、息子たちを人質として宮廷に送った。サウロン、ドル・グルドゥアに帰還。
1100 年	サウロン、中つ国全土に特使を放つ。特使はハラドにも来訪し「目の教団」(Cult of the Eye) が設立される。
1205 年	ハラドのマルダット (Márdat) 誕生。
1232 年	マルダット、遠ハラドはバズラ (Badhra) の王となり、「蛇王」(Serpent Lord) の名で知られる。
1235 年	蛇王の旗のもと、遠ハラドの砂漠の諸王国が団結。ゴンドールに忠実だったハラドの王は領土の防備を固める。
1236 年	カールナ (Kárna) の都が遠ハラドの首府となる。
1237～1240 年	平和の時代。蛇王とゴンドール緒領主のあいだに不安定な調和がもたらされる。東の道 (East Road) 以南のすべての土地は、ゴンドール領としての独立を保ちつつ、マルダットの法に従った。
1241 年	蛇王、停戦を破り近ハラドに侵攻するも、ハンド傭兵の攻撃を受け敗北。撤退中に腹心だった族長との一騎打ちに破れ、蛇王は死亡する。統率を失った遠ハラド軍、急速に瓦解。
1242 年	ゴンドールがカールナの都を略奪。以来、都は砂塵と亡霊の地となる。
1242～1245 年	ゴンドールが遠ハラドの統治権を改めて主張。ウンバール、再びハラドの首府となる。マルダットの王国は、ゴンドールに忠誠を誓う 5 人の支配者によって分割された。
1278 年	アブラカーン (Abrakán) 周辺の支配者ジラード (Jilaad) が蛇王の後継たらんと目論み、兵力を集めるためハンドの大君主と秘密裏に同盟を結ぶ。
1281 年	ジラード、自らの息子ジャレル (Jarell) の手でゴンドールの法廷に売り渡される。斬り落とされたその首は警告として、国境を越えハンドに送られた。
1350 年頃	目の教団と黒きヌーメノール人が、ハラドの各王国で反乱を扇動し始める。
1432 年	ゴンドールで「同族の争い」が勃発。第 21 代エルダカール王と王族のひとりカスタミアが対立し、内戦の火の手が上がる。
1433 年	ゴンドールの弱体化を見て取った黒きヌーメノール人が、ハラドで反乱を扇動する。
1436 年	ウンバール守備隊を除くゴンドール軍、ハラドから放逐される。

1437年	オスギリヤス炎上。エルダカール王は北方ロヴァニオンへ落ち延びる。篡奪者カスタミア、第22代 Gondool 王となる。
1447年	エルダカール王が Gondool に帰還。カスタミアを殺害し、ペラルギアの叛徒を包囲する。
1448年	カスタミアの息子たちと反乱軍残党がウンバルに逃走し、守備隊の隙をついて街を征服。以降ウンバルは海賊の根拠地と化す。Gondool のハラド支配は弱まり、ハロンドールの領有を巡るウンバルの海賊との戦いが始まる。
1540年	ハラドの軍勢とウンバルの海賊がハロンドールに侵攻。第23代 Gondool 王アルダミラは討ち死にしたが、戦いは Gondool の勝利に終わる。
1551年	ハラド軍、再びハロンドールに攻撃を仕掛けるも敗走。第24代 Gondool 王ヴィンヤリオン、ヒヤルメンダキル二世を名乗る。
1634年	カスタミアの曾孫アンガマイテとサンガヒヤンドがペラルギアを攻撃し、第25代 Gondool 王ミナルディルを殺害。
1810年	第28代 Gondool 王テルメフタール率いる軍勢がウンバルを強襲。同地を奪取し篡奪者カスタミアの最後の子孫を滅ぼす。これにより王はウンバルダキル（「ウンバルの征服者」）を名乗る。
1815年	テルメフタール・ウンバルダキル、ハロンドールとハラドの国境防衛線強化に尽力。
1820～2800年	この間、ハラドとウンバルは弱体化しており、Gondool も東方の封鎖に戦力を割いていたため、双方は小競り合いに終始。不安定な平和が維持される。
1851年	馬車族が Gondool を攻撃。ハロンドールの守りは放棄される。
1856年頃	馬車族侵攻の混乱に乗じ、ハラドリムがウンバルを奪い返す。
1902年	ハラドがハンドへ侵攻。東方戦争（The Eastern War）勃発。
1904年	剣の野（Field of Swords）にて、ハラドがハンドの軍勢に敗北。ウンバル諸侯、ハンドの王に和睦を訴える。
1944年	近ハラド諸部族とハンド人、馬車族が同盟を結び、Gondool へ侵攻。Gondool のエアルニル将軍、南イシリアンでポロス川を渡ってきたハラド軍とその北方の馬車族を相次いで撃退し、翌1945年には第32代 Gondool 王エアルニル二世として即位。
1968年	「沈黙の塔」ハサル・カルナック（Hsar Karnakh）が、ハーシャリイ（Hasharii ※複数形。単数形はハーシャリン Hasharin）の本拠地となる。
1973年	ウンバルのカルマック卿（Lord Karmakh）、増長するハーシャリイの権勢に警鐘を鳴らす。続く年月、ウンバル諸侯のあいだで支持を集めようと努めるも、成果はわずかであった。
1975年	カルマック卿、反逆罪でハーシャリイに告発される。賛同者たちからも見捨てられ、カルマック卿はハサル・カルナックで拷問の末に死亡。
2050年	第33代にして Gondool 最後の王、エアルヌアが行方不明となり、執政による統治が始まる。
2201年	アブラカーンの商人の団が、ナーファラット（Náfarat ※「大砂漠」の意）奥深くの墳墓で莫大な財宝を発見。恐るべき亡霊ディームロクヒ（Dímlokhi ※複数形。単数形はディームロク Dimlokh）の追手に殺され、宝は奪還された。
2758年	「大侵略」勃発。海賊、東夷、褐色人が、Gondool とローハンを同時に攻撃した。ウンバルとハラドは3つの大艦隊で Gondool の沿岸全域を襲撃し、アイゼン川の河口にまで至る大規模上陸作戦を展開。翌2759年まで Gondool 軍を悩ませ、ローハンに援軍を送る力を削いだ。
2885年	サウロン教団に焼きつけられたウンバルのドゥーナス卿（Lord Dúnath）が、ハラドの軍勢を率いてハロンドールの境界を越える。軍勢は現地の守備隊を破り、ポロス川を渡ってイシリアンを襲撃するが、Gondool の救援に現れたローハン騎兵の活躍により敗北。
2964年	カリッド・ドロズナ（Kharid drózhna）誕生。
2970年頃	ソロギルを名乗るアラゴルン二世がウンバルを強襲、港の大將を斃し多くの船を燃やす。ドロズナ、ハーシャリイの一員となる。
2974年	のちの二代目蛇王、スラダーン（Suladân）誕生。
2981年	ドロズナ、ナズグールの一人に見出され冥王の配下となる。
2982年	謎の疫病がアズカーハル（Azkâhar）の塔を襲い、全住民が死亡。以降ハラドの民は、この地を避けるようになる。
2999年	二人の特使がウンバルを訪れ、来るべき戦争での同盟を持ちかける。ウンバル諸侯はハラドの大軍勢を編成し始める。
2995年	スラダーンが自身の部族の指導者となる。
3002年	スラダーンの勢力拡大を警戒したドロズナが陰謀を巡らし、彼をハンドとの国境警備に送る。
3003年	九人組の一人が秘密裏にアズカーハルを訪れ、己がものとする。
3005年	Gondool とハラドの国境に沿って、小規模な軍事衝突が頻発。双方に多くの戦死者を出す。高貴なるイムラヒル大公がドル・アムロスから軍勢を率いて南下し、ハラドリムを押し戻す。
3006年	執政デネソールの息子ポロミアが、ハロンドールへ大胆な攻撃を敢行。部下たちを率いて集結中だったハラドの大軍勢に破壊をもたらす。ウンバル諸侯の計画を何年も遅らせた。
3007年	遠ハラドの町ラターン（Ratarn）が、北方で集結中の大軍勢に人員と物資の供出を拒否。ドロズナは彼らを従わせる任務を受けるが、代わりに町を完膚なきまでに破壊し、住民を虐殺した。

3010年	ハンドの大軍勢が押し寄せ、パーズガール (Pázghar) 要塞を破壊。スラダーンは反撃を加え、ハンドの王ヴァンガリス (Vangaris) を戦場で討ち取る。指導者を失ったハンド軍は散り散りとなり敗走。スラダーンはハンドの指導者の鎧を手に入れる。
3012年	ウンバール諸侯はスラダーンに、サウロンのために編成されつつあるハラド大軍勢の指揮を依頼。スラダーンはこれを断り、ハンドとの国境に戻る
3017年	サウロンの影響力がハンドの王にも及び、ハラドとハンドの同盟が結ばれる。スラダーン、バザルハン (Badharkhan) へ帰還。
3018年	スラダーン、再びハラド再軍勢の指揮を打診される。スラダーンは断るつもりだったが、ドローズナに家族を人質に取られ、その解放と引き換えに要請を受諾。
同6月20日	ハラドリム、東夷を含むモルドール軍がオスギリアスを攻撃。ゴンドールの守備隊を指揮していたボロミアとファラミアは、大河アンドウインにかかっていた最後の大橋を落とし、辛うじて街の西側を死守するが、東側は敵の手に落ちる。
3019年	遅くとも3月までには、ハラドの大軍勢が北進を開始。スラダーンはカリッド・ドローズナを殺害し、全軍を掌握する。
同3月5日	ハラドリムの部隊の一部が黒門を通過。
同3月7日	ムマキルを伴ってイシリアンの街道を移動中だったハラドリム部隊が、ファラミア率いるレンジャーの一団に待ち伏せを受けて壊滅。
同3月11日	ハラドリムの大部隊がミナス・モルグルを進発したモルドール軍と合流。オスギリアスへと進軍を開始する。
同3月14日	ハラドリムを含むモルドール軍、ミナス・ティリスを包囲。
同3月15日	ペレンノール野の戦い。モルドール軍は壊滅し、ハラド軍も瓦解する。スラダーン、合戦のさなかでローハンのセオデン王との一騎打ちに敗れ死亡。
同3月25日	黒門の戦い。サウロン消滅し、モルドール軍は崩壊する。ハラドリムと東夷も大多数が東へ逃走するか投降した。
同4月	ハラドリムと東夷の残党、西軍に抵抗を続ける
同5月1日	エレスサール王が即位。のちに王はハラドの民と和平を結ぶ。